http://www.nochuri.co.jp

農林中金総合研究所

Weekly金融市場

2014年10月10日号

調査第二部

多田 忠義・趙 玉亮

≪来週のポイント≫

● **米FOMC関係者発言やベージュブック発表に注目：利上げ時期を巡って思惑交錯続く見通し**

来週は米公開市場委員会（FOMC）メンバーの講演が複数予定されている。このところ、次回FOMC（10/28, 29）を控えて、利上げ時期に関する発言が続いており、引き続きその内容に注意したい。

また、15日に米地区連銀経済報告（ベージュブック）が発表される。8日に発表されたFOMC議事要旨（9/16, 17 分）では、ゼロ金利政策の終了時期について「相当な期間」としている文言の変更をめぐり、活発な議論が交わされたことが明らかとなったが、順調な米経済とは対照的に、リスク要因として挙げていた日欧や中国経済は冴えない状況が続いている。IMF が 7 日に発表した世界経済見通し（WEO）でも、世界経済の成長見通しが下方修正されるなど、米経済の好循環がいつまで続くかという懸念の声も上がり始めており、ベージュブックで報告されるとみられる雇用や生産の改善傾向は、利上げ時期を巡る思惑を引き続き交錯させるであろう。

● **経済指標など**

日本では、14日に「**企業物価指数（9月）**」が発表される。増税後の景気の動きは鈍いことに加え、エネルギー価格が下落に転じていることもあり、物価上昇圧力は弱まっている。そのため、3 ヶ月連続で物価上昇幅は縮小するとみられる。

米国では、15日に「**小売売上高（9月）**」が発表される。コンセンサス中央値（Bloombergまとめ、10日現在）によれば、前月比▲0.2%と、8 月（同 0.6%）からマイナスへ転換、自動車を除くコアは同 0.2%と、8 月（同 0.3%）から小幅鈍化の予想である。8 月は、1 年 3 ヶ月ぶりの高い伸び率だったことから、反動減が予想されるものの、均して見れば堅調に推移するとみられる。

なお、日米ともに祝日のため13日は休場となる。一方で、来週は米金融やIT関連企業の決算や新製品発表会が予定されており、こちらも注目される。

来週のスケジュール（10/13～10/19）

月 日	国内の予定	海外の予定
10月13日（月）	休場（体育の日）	米 休場（コロンブス記念日） 欧 ユーロ圏財務相会合 中 「貿易統計（9月）」
10月14日（火）	「企業物価指数（9月）」（2pに予測掲載） 「マネーストック（9月）」	欧 EU経済財務相理事会 欧 「ユーロ圏鉱工業生産（8月）」 独 「ZEW景況感調査（10月）」
10月15日（水）	30年利付国債入札（0.7兆円程度） 国庫短期証券（1Y）入札（2.5兆円程度） 「鉱工業生産指数・設備稼働率（8月確報）」	独 ドラギECB総裁講演（フランクフルト） 米 「地区連銀経済報告（ベージュブック）」 米 「小売売上高（9月速報）」 米 「生産者物価指数（9月）」 中 「消費者物価指数（9月）」 中 「卸売物価指数（9月）」 米 「MBAローン申請指数（10月10日週）」
10月16日（木）	国庫短期証券（3M）入札（5.7兆円程度） リクルートホールディングス東証1部上場	米 プロッサー・フィラデルフィア連銀総裁講演 米 コチャラコタ・ミネアポリス連銀総裁講演 米 アップル新商品発表会 欧 「消費者物価指数（9月）」 米 「鉱工業生産・設備稼働率（9月確報）」 米 「新規失業保険申請件数（10月11日週）」 米 「失業保険継続受給者数（10月4日週）」
10月17日（金）	黒田日銀総裁挨拶（全国信用組合大会） 5年利付国債入札（2.7兆円程度）	米 イエレンFRB議長講演 米 「住宅着工・許可件数（9月）」 米 「ミシガン大学消費者信頼感指数（10月速報）」

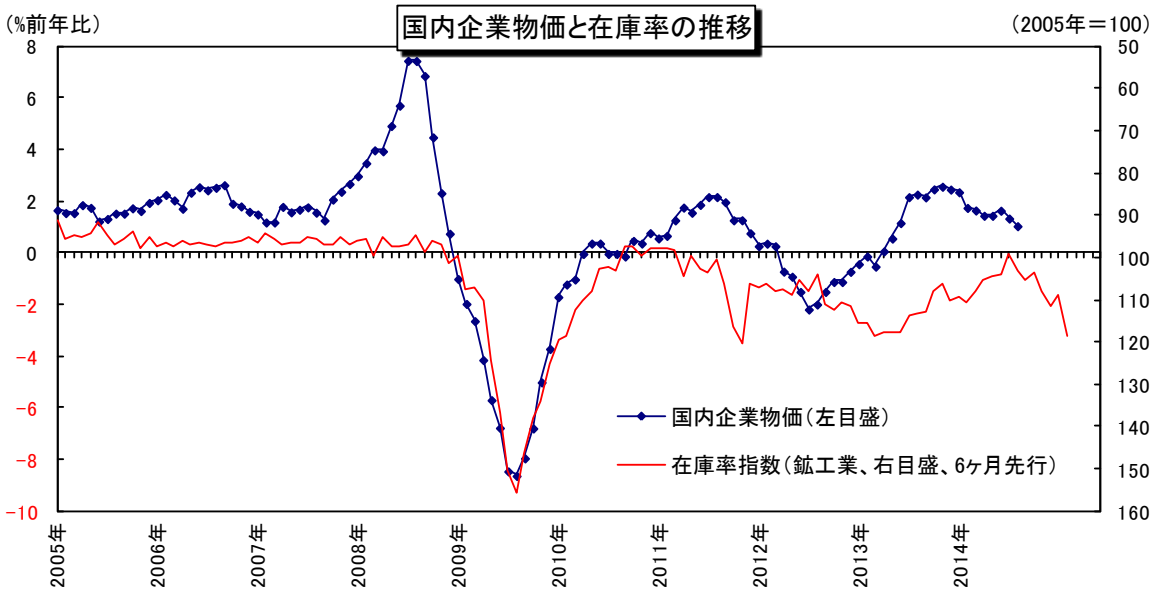
無断転載を禁ず。本資料は、信頼できると思われる各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は情報提供を目的に作成されたものであり、投資のご判断等はご自身でお願い致します。

1．来週発表予定の経済指標予測

9月の企業物価【10月14日（火）8：50】

＜当社予測＞国内企業物価：前年比　3.5%（8月：3.9%）、**前月比▲0.2%**（8月：▲0.2%）

これまでの素原材料の価格上昇が食料品などに波及する動きも残っているが、電気料金や石油製品などエネルギー関連を中心に下落する財も散見され始めた。消費税増税後の国内景気は鈍く、在庫率が急上昇するなど、潜在的な価格下落圧力が強まりつつある。以上から、国内企業物価指数は前年比3.5%と、3ヶ月連続での上昇幅縮小が予想される。（竹光）



（資料）経済産業省、日本銀行　（注）消費税要因を除くベース

2．債券市場

寺林 暁良

◎相場概況 (10/6～10/10 前場)

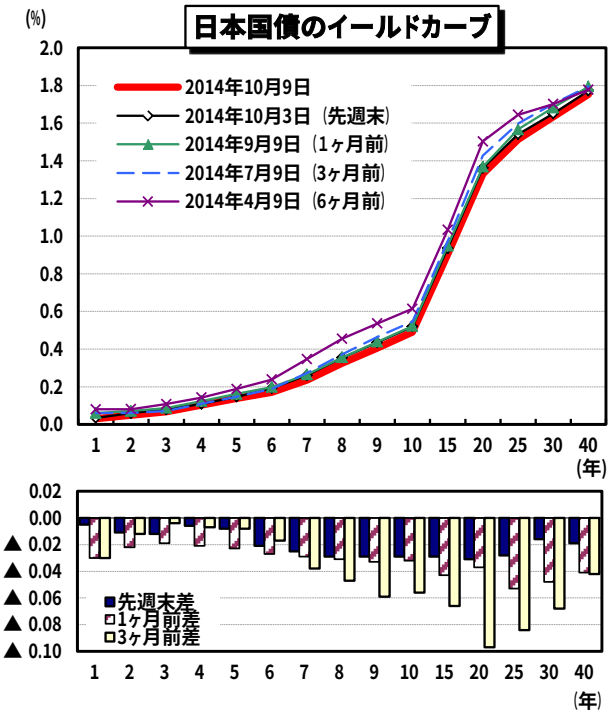
長期金利（新発 10 年国債利回り）は、世界経済の減速懸念の中で低下し、週末には 1 ヶ月ぶりに 0.5%を割り込んだ。

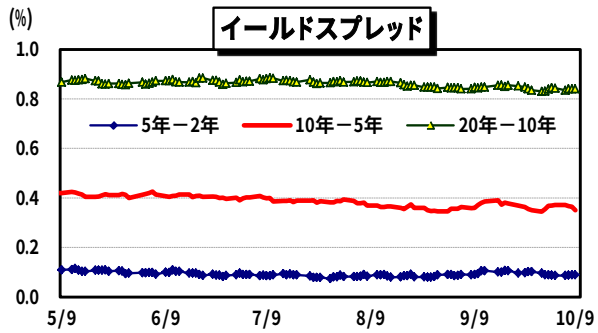
週初の 6～7 日に日銀金融政策決定会合が開かれたが、予想通り政策維持が決まったことから、長期金利は0.52%前後の横ばい推移となった。しかし週央には、8 日にIMFが公表した世界経済見通しで世界成長率予測が下方修正されたことなどから、株安･債券高が進行。週後半には、9 日の日銀長期国債買入れオペで債券需要の底堅さが確認されたほか、ユーロ圏の景気先行き懸念が広がったことも加わり、一時 0.485%を付けるなど 1 ヶ月半ぶりの低水準で推移している。

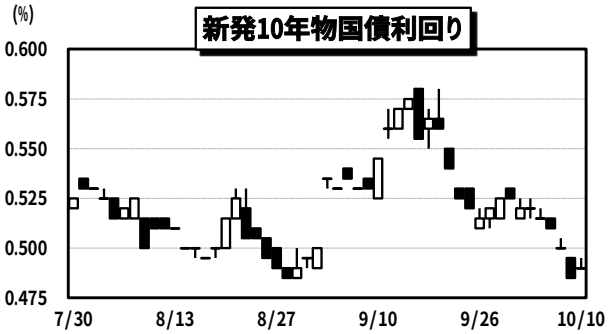
イールドカーブは、フラット化が進行した。10 日の 11:00 時点の新発 10 年国債（#335）は、0.490%（先週末比▲3.0 ベーシスポイント）。同 11：02 時点の 10 年国債先物（中心限月 12 月物）は、146 円 22 銭（先週末比＋24 銭）。

◎来週の相場予想 (10/14～10/17)

世界経済の先行き懸念が金利低下要因となる中、米FRBメンバーやドラギECB総裁の発言が注目点になるだろう。15 日には 30 年国債入札、17 日には 5 年国債入札が行われるが、このところは全期間でフラット化が進行していることもあり、ともに無難な結果を予想する。







（資料）財務省「国債金利情報」より作成。新発 10 年国債利回りは Bloomberg より作成

◎国債入札結果

入札日	銘柄（回号）	表面利率	発行予定額	応札倍率	テール	最低価格	最高利回
10/8	10年物価連動国債（#19）	0.1%（0.1%）	0.5兆円	2.11倍（2.54倍）	-（-）	108.05円	▲0.658%

（資料）財務省ホームページより農中総研作成。表面利率及び応札倍率、テールの（　）内数値は前回入札の値

3．株式市場

趙　玉亮

◎相場概況（10/6～10/10 前場）

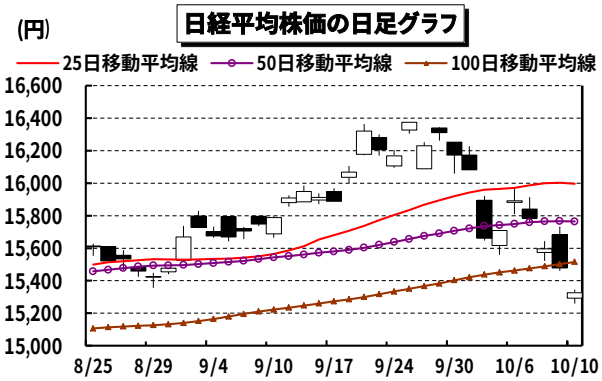
日経平均株価は、世界経済の成長鈍化に対する懸念が高まったことなどから、4 営業日続落し、15,300 円割れとなった。

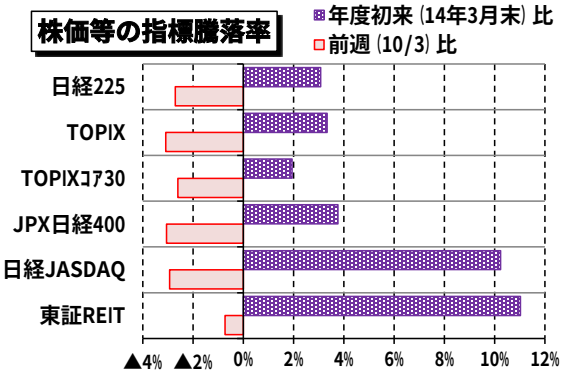
週明け 6 日は大幅続伸、前週末に発表された米雇用統計の好結果を受け、円安が進行したことから買いが優勢だった。7 日は反落、8 月の景気動向指数が悪化したことなどを嫌気した。8 日は大幅続落、IMF が世界経済見通しで成長率を下方修正したことや、ドイツ鉱工業生産指数が悪化したことなどで世界経済の成長鈍化に対する懸念が高まった。9 日も続落、FOMC 議事要旨でドル高に対する警戒感が示されたことから、円安一服で日経平均株価は下げた。10 日前場も大幅続落、NY ダウが今年最大の下げ幅となった流れを受け、売り優勢となり、一時 15,259 円 95 銭と 8 月中旬以来 2 ヶ月ぶりの安値を付ける場面もあった。

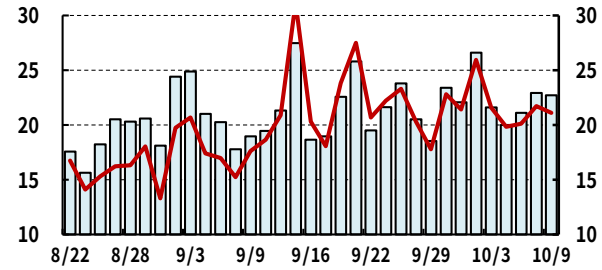
◎来週の相場予想（10/14～10/17）

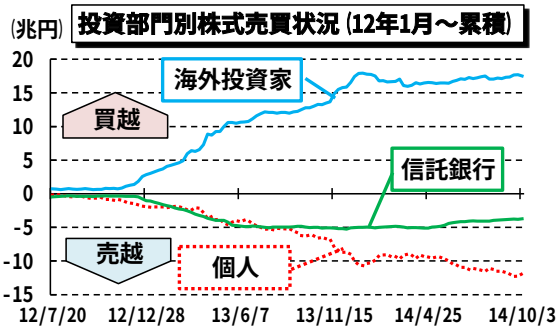
世界経済の成長鈍化に対する懸念が高まるなか、FOMC メンバーの講演が相次ぐため、その発言内容に注目したい。来週は、材料が少ないなか、全体として上値の重い展開を予想する。

＜10/10前場終値＞　日経平均：15,326.67　（前週末比　▲ 381.98　）　TOPIX：1,243.03　（同　▲ 39.51　）









●決算発表　注目銘柄（変更になることがありますのでご注意ください）　（資料）Bloomberg より農中総研作成

(10/14)　ﾊﾟﾙ、ｱｰｸｽ、東宝、ﾋﾞｯｸｶﾒﾗ、S FOODS、いちごｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ

(10/15)　ｳｴﾙｼｱﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ、松竹、ﾄﾞﾄｰﾙ・日ﾚｽﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ、TSI ﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ、ｼﾞｪｲｱｲｴﾇ、ｻｲｾﾞﾘﾔ、ｱﾃﾞﾗﾝｽ

(10/17)　東京製鐵　　など

4. 外国為替市場

竹光　大士

◎相場概況　(10/6～10/10 前場)

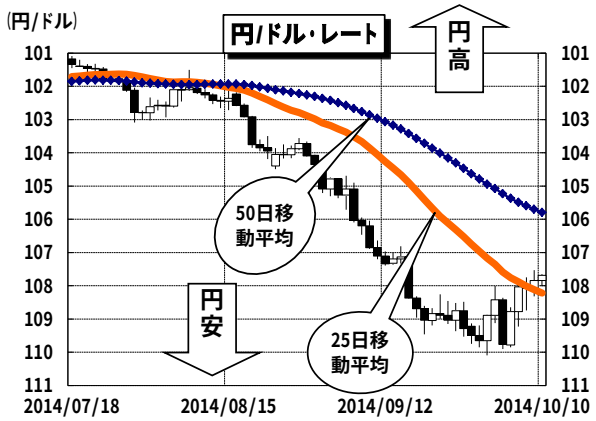
ドル・円相場は米早期利上げ観測後退し、ドル高修正の流れ

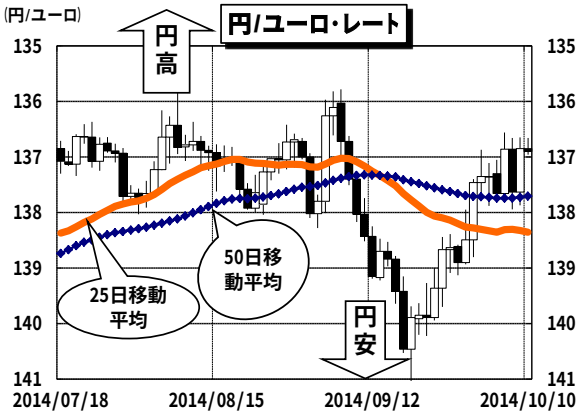
ドル円は週初は前週の予想比強かった雇用統計を受け 109 円台後半でスタートしたが、安倍首相の円安をけん制する発言等もあり、108 円後半へと円高に。週央には IMF が世界経済見通しを下方修正したこと、前回 9 月の FOMC 議事要旨が公表され、世界経済の減速とドルの上昇が米経済見通しにとってリスク要因になり得ると指摘されていたこと、これらをうけ日経平均株価が軟調推移したこと等から、さらに円高が進み、107 円台後半となった。10 日前場にかけても、同水準で推移している。

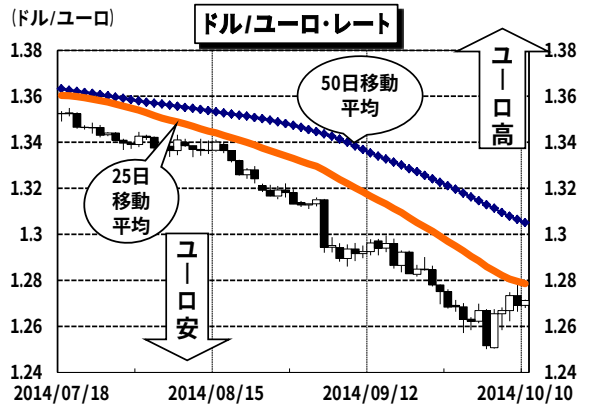
ユーロ円は、週前半に独鉱工業生産が予想を下回ったことから円高に。週央には、前週までのドル高修正の動きからユーロ高円安方向に戻したものの、週後半にかけてドラギ総裁が追加的な措置もあり得るとの見解を改めて示したことから、136 円台後半へと再度、円高になった。10 日前場にかけても、136 円台後半で推移している。

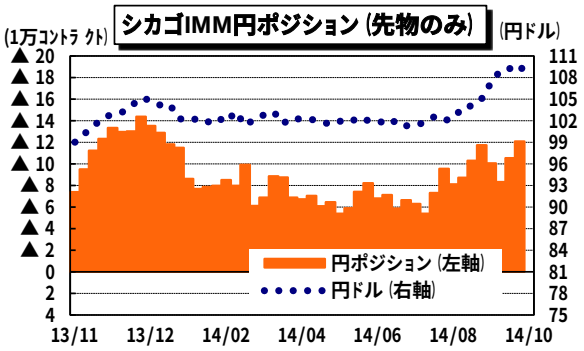
◎来週の相場予想　(10/13～10/17)

15 日に米国でベージュブックが発表される。最近、米経済が回復基調にある中、各地区経済についてどのような判断をしているか、注視したい。また、15 日のドラギ ECB 総裁の講演、17 日のイエレン FRB 議長の講演等要人発言に注目である。ドラギ総裁は再三追加措置に言及してきたが、焦点の量的緩和の可能性に言及するのかが引き続き注目される。また、イエレン議長の講演については最近の労働市場の回復についてどのようなコメントをするのか注目したい。









(注) 1コントラクト=1250万円
(資料) Bloombergより農中総研作成

5－1．海外市場（米国、欧州）

（米国）木村俊文、（欧州）山口 勝義

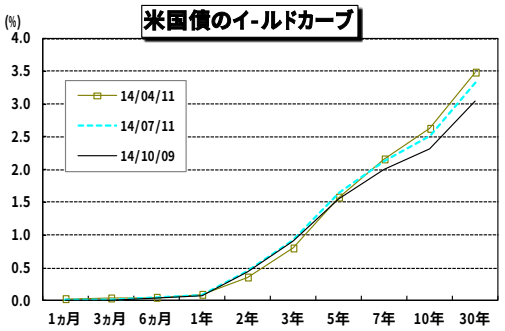
◎相場概況（10/3～10/9）

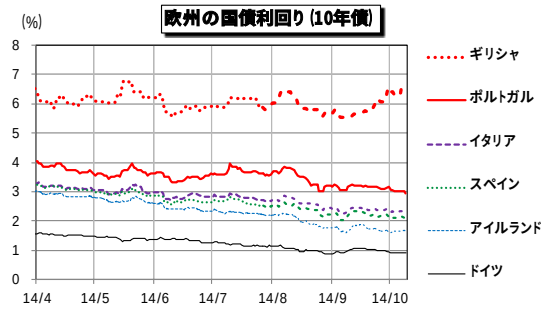
【米国】

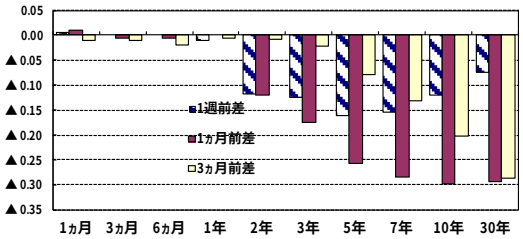
米国の長期金利（10 年債利回り）は、9 月の雇用統計が市場予想を上回った（3 日）ことを受け 2.43%と小幅上昇した。しかし、その後は IMF が世界経済見通しを下方修正（7 日）し、地政学的リスクや株式相場の過熱で金融市場が調整する可能性を指摘したことから大幅株安･債券高となった。また、FOMC 議事要旨（8 日）の内容がハト派寄りであったことを受け早期利上げ観測が後退し、9 日も世界経済の減速懸念を背景としたリスク回避の動きから引き続き低下し、先週比 11bp 低い 2.31%と 13 年 6 月以来 1 年 4 ヶ月ぶりの低水準となった。一方、株式相場は乱高下の展開。8 日に FOMC 議事要旨を好感して一旦上昇したが、9 日のダウ工業株 30 種平均は先週比 141 ドル（0.8%）安い 16,659.25 ドルと 8 月中旬以来 2 ヶ月ぶりの安値で取引を終了した。

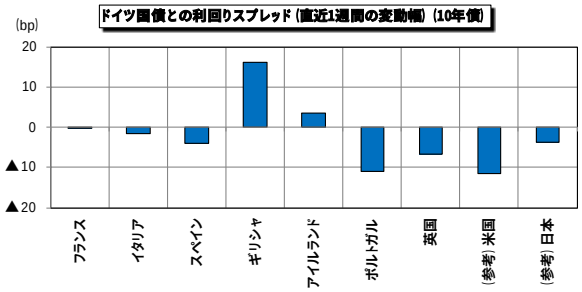
【欧州】

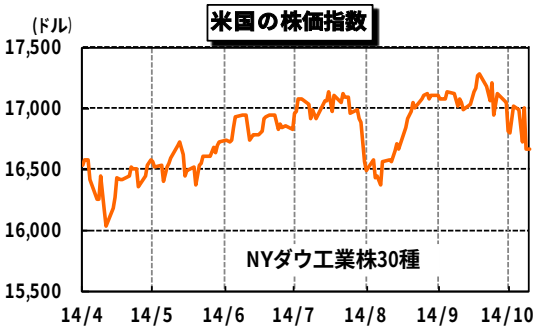
国債市場では、ドイツの 8 月の製造業受注（6 日）や鉱工業生産（7 日）の予想外の大きな落ち込み、IMF によるユーロ圏の経済成長率見通しの引下げ（7 日）等で、周辺国債を中心に利回りの低下が進んだ。一方、ギリシャ国債については、トロイカが金融支援に関する審査をギリシャ当局者らとの意見の相違で中断したとの報道（7 日）などで利回りは上昇して推移した。週を通じてドイツ国債はほぼ変わらずの水準。株式市場については、先週末には米雇用統計を好感し反発したものの、今週に入り景気の先行きに対する慎重な見方が強まったほか、IMF が株式相場の過熱で金融市場が調整に見舞われる可能性に言及したこと（7 日）などを受け、神経質な展開が続いた。週間で、ストックス欧州 600 指数は 1.6%、また、うち銀行セクターは 1.2%下落した。

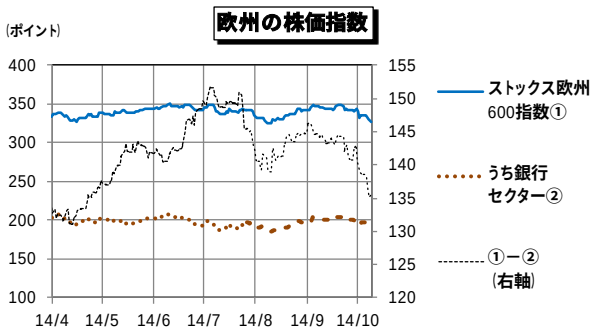












（資料）Bloomberg より農中総研作成

5－2．海外市場（中国、その他新興・資源国）

（中国）王 雷軒、（その他新興・資源国）多田 忠義

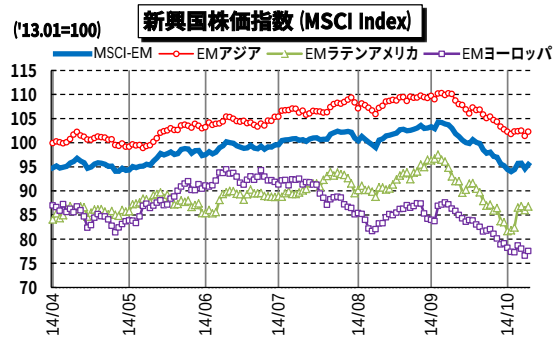
◎相場概況 （10/3～10/9）

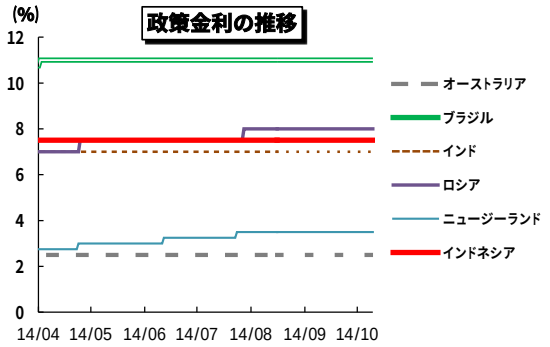
【中国】

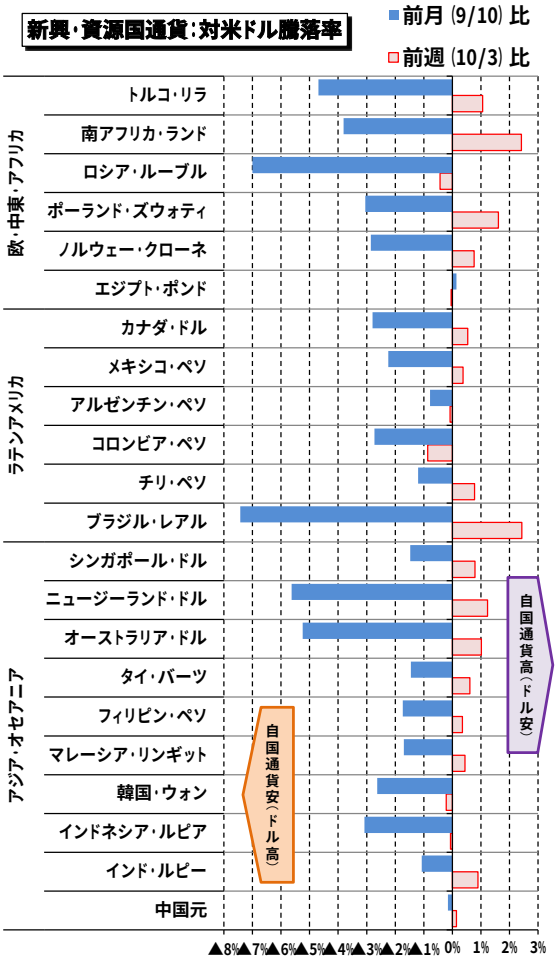
中国人民銀行（中央銀行）および中国銀行業監督管理委員会が 9 月 30 日に 2 軒目の住宅購入にかかる住宅ローン規制を緩和するなどの内容を発表したことなどから、国慶節休暇（10 月 1～7 日）明け 8 日の上海総合指数は 7 営業日続伸した。その後も、李克強首相が 8 日に開かれた国務院会議で景気下振れリスクを回避するための 6 項目の対策を講じるよう指示したことを受けて続伸し、13 年 2 月以来の 1 年 7 ヶ月ぶりの高値となる 2,389 ポイントを付けた。

【その他新興・資源国】

米雇用統計の改善を受けて米ドル高が一旦進行したものの、週初はポジション調整で米ドルが売られた。さらに、IMF 世界経済見通しの下方修正（7 日）や、FOMC 議事要旨（8 日）で利上げ時期の前倒し予想が後退したことなどが重石となって米ドル売りが加速し、相対的に新興国通貨は買われた。ただし、新興・資源国経済は資源価格下落や米国を除く先進国経済の先行き懸念が意識され、株価はさえなかった。国別に見ると、オーストラリアでは、政策金利（2.5%）の据え置きを決定した（7 日）。ロシアでは、3 日、7 日に為替介入を実施したほか、ルーブル相場の許容変動範囲を引き下げるなど、通貨防衛を強化した。ブラジルでは、5 日に大統領選挙が実施され、1 位となったルセフ現大統領の得票率が過半に達せず、26 日に決選投票となることが決まった。2 位は選挙戦終盤で追い上げたネベス氏で、3 位となったシルバ氏がネベス氏を支援に回るとの観測が広がったことから、株高・レアル高となった。







（注）一部通貨は前営業日終値、それ以外は本グラフ作成時点との比較
（資料）Bloombergより農中総研作成

6. 指標分析・注目点

南 武志

① 今週のレビュー

10 月 6～7 日に開催された日本銀行政策委員会の金融政策決定会合では、大方の予想通り、量的・質的金融緩和（QQE）をこれまで通りの枠組みで継続することを決定した。会合後に公表された声明文によれば、新たに生産面の弱さに言及したものの、「基調的には緩やかな回復を続けている」との判断は据え置いている。また、黒田日銀総裁は G20 財務相・中銀総裁会合に出席するために訪れたニューヨークにて「日本経済：慎重論に答える」と題して講演をし、「家計・企業の両部門において、所得から支出への前向きな循環メカニズムがしっかりと作用しており、日本経済は、先行き、基調として潜在成長率を上回る成長を続ける」「消費者物価の前年比は、本年度後半から再び上昇傾向をたどり、2015 年度を中心とする期間に、「物価安定の目標」である 2%程度に達する可能性が高い」と、非常に楽観的な見通しを示した。必要であれば追加緩和も辞さないとしているものの、そのような可能性は薄いということであろう。

一方で、実際の景気情勢は徐々に厳しさを増しているのが実情だ。8 月の景気動向指数によれば、一致 CI は前月差▲1.4 ポイントと 2 ヶ月ぶりに低下したため、基調判断は「足踏み」から数ヶ月前に景気がピークアウトした可能性を示す「下方への局面変化」へ修正された。今後数ヶ月内に再び一致 CI が前月差マイナスとなると、すでに後方 3 ヶ月移動平均は 5 ヶ月連続で前月差マイナスとなっていることもあり、基調判断は「悪化」へとさらに下方修正される可能性がある。さらに、国際通貨基金の世界経済見通し（7 日発表）においては、14 年の日本経済は 0.9%成長へと大幅に下方修正された（7 月時点から▲0.7 ポイント）。当総研の経済見通し（14 年度：0.2%成長）を暦年に直すと 1.0%成長であることを考慮すると、政府や日銀の 14 年度見通し（それぞれ 1.3%、1.1%）を大きく下回っており、かなり慎重である。今後、再増税判断や追加緩和の可能性を巡り、さまざまな思惑が浮上し、相場にも少なからぬ影響を与えると思われる。

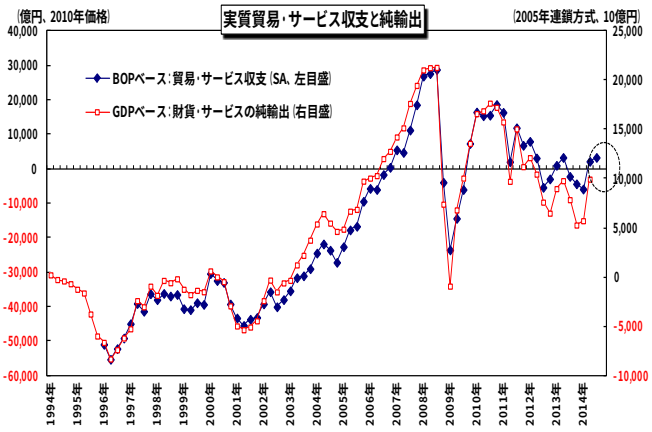
2014～15年 IMF世界経済見通し

	2012年	2013年	2014年	2015年
世界全体（実質経済成長率）	3.4	3.3	3.3	3.8
先進国	1.2	1.4	1.8	2.3
米国	2.3	2.2	2.2	3.1
ユーロ圏	▲ 0.7	▲ 0.4	0.8	1.3
ドイツ	0.9	0.5	1.4	1.5
フランス	0.3	0.3	0.4	1.0
イタリア	▲ 2.4	▲ 1.9	▲ 0.2	0.8
スペイン	▲ 1.6	▲ 1.2	1.3	1.7
英国	0.3	1.7	3.2	2.7
日本	1.5	1.5	0.9	0.8
新興国・発展途上国	5.1	4.7	4.4	5.0
中国	7.7	7.7	7.4	7.1
インド	4.7	5.0	5.6	6.4
ブラジル	1.0	2.5	0.3	1.4
ロシア	3.4	1.3	0.2	0.5
南アフリカ	2.5	1.9	1.4	2.3
ASEAN5	6.2	5.2	4.7	5.4
世界貿易数量（財・サービス）	2.9	3.0	3.8	5.0

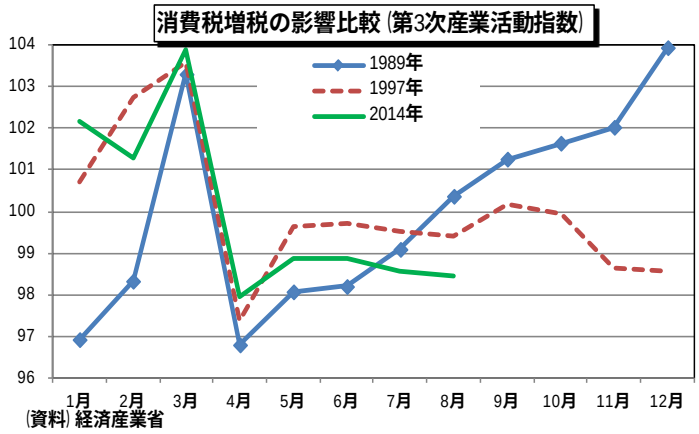
（資料）IMF『World Economic Outlook（2014年10月）』

以下、景気動向指数以外に今週発表された主要な経済指標を確認していきたい。8 月の機械受注統計によると、代表的な「船舶・電力を除く民需」は前月比 4.7%と 3 ヶ月連続の増加となった。内閣府は基調判断を「緩やかな持ち直しの動き」へ上方修正したが、水準的には 4～5 月にかけて落ち込んだ分の半分弱しか回復できていない。業種別にみると、製造業が同▲10.8%と 3 ヶ月ぶりに減少。7 月分（同 20.3%）の反動が出た業種（化学工業、石油・石炭製品）もあるほか、一般機械なども減少。一方の非製造業（除く船舶・電力）は同 10.7%と 2 ヶ月ぶりに増加となったが、リース業や鉱業・採石業・砂利採取業（いずれも 7 月分の約 3 倍）といった一時的要因に牽引された面もあり、持ち直し傾向が強まっているのかどうかの判断は時期尚早に見える。

次に 8 月の国際収支統計によれば、経常収支は 1,308 億円（季節調整済、以下同じ）と 5 ヶ月連続の黒字、黒字幅も 3 ヶ月ぶりに拡大。内訳をみると、貿易収支は▲8,916 億円と 3 ヶ月連続で赤字幅が拡大したが、サービス収支は▲2,616 億円と 3 ヶ月ぶりに赤字幅が縮小。また、第一次所得収支は 1 兆 4,829 億円と 2 ヶ月連続で黒字幅が拡大している。ちなみに、輸出入物価を用いて GDP 統計上の「実質外需」に近い「実質貿易・サービス収支」を試算すると、7～8 月分の四半期換算値は 4～6 月期から黒字幅が拡大しており、外需寄与度（対前期比成長率）が 2 四半期連続でプラスとなる可能性も出てきた。



（資料）内閣府、財務省、日本銀行　（注）実質貿易・サービス収支は輸出入物価を用いて農中総研が推計



（資料）経済産業省
（注）1989年分は89年=100、1997年分は97年＝100、2014年分は2014年=100

また、8 月の第 3 次産業活動指数は前月比▲0.1%と、7 月分が速報段階（同横ばい）から同▲0.3%へ下方修正されたため、2 ヶ月連続の低下となった。業種別には、金融業（同 2.2%）、小売業（同 1.8%）、その他サービス業（除く公務等、同 3.0%）、生活関連サービス業・娯楽業（同 2.3%）などが上昇したが、学術研究、専門・技術サービス業（同▲6.2%）、卸売業（同▲2.3%）、電気業（同▲4.0%）などが低下。ちなみに、広義対個人向けサービス業は 3 ヶ月ぶりに改善。

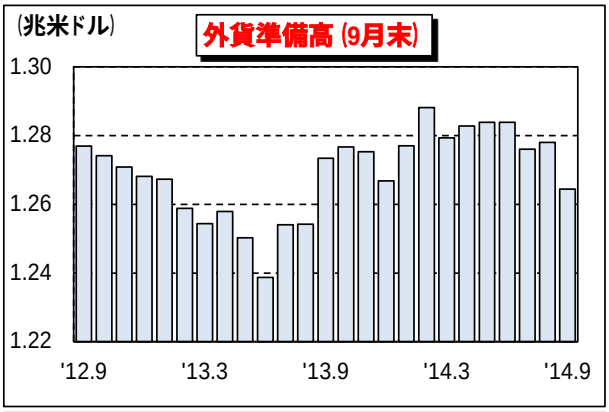
最後に 9 月の貸出・預金動向によれば、銀行・信金の貸出総額は前年比 2.3%と、僅かながらも増加幅が拡大した（うち、銀行は同 2.4%、信金は同 1.4%）。また、3 業態の実質預金+CD も同 2.9%と同様に増加幅が拡大（内訳は都銀が同 2.7%と増加幅拡大、地銀・第二地銀は同 3.1%と増加幅縮小）。

7. 今週の主なできごと

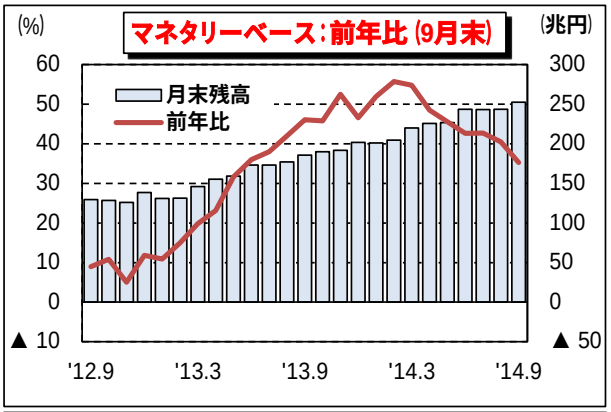
月　日	政治・財政	経済・金融	海外・その他
10 月 3 日（金）		・東京都：法人住民税等にかけている独自の上乗せ税率を今後も続ける方針	・プラート ECB 専務理事：ABS やカバードボンド買い入れによる信用緩和措置について、大規模になるとしたが、正確な数字の提示は困難との考えを示した
10 月 4 日（土）	・石破地方創生相：地方で起業する個人事業者を対象に税制面等での優遇策を検討していると明らかに		
10 月 5 日（日）			・台風 18 号：5 日から 6 日にかけて、日本列島を縦断、各地に被害をもたらす
10 月 6 日（月）	・財務省：日比通貨スワップの交換限度額を 60 億ドルから 120 億ドルに拡充する協定を締結したと発表	・甘利経済財政相：来年 10 月に消費税を 10%に引き上げるかを判断する際、12 月 1 日に発表予定の法人企業統計を分析すれば可能	・スペイン保健省：エボラ出血熱の患者を受け入れた病院に勤務する女性がエボラ熱に感染したと発表 ・FRB：米労働市場の総合的な環境を示す「労働市場情勢指数」（LMCI）を公表
10 月 7 日（火）	・政府：日豪 EPA の発効に必要な国内法案を閣議決定	・日本銀行：金融政策決定会合で現状維持を決定 ・黒田日銀総裁：円安、行き過ぎた円高是正で自然な動き ・塩崎厚労相：GPIF の運用見直し時期、「GPIF が決めること」 ・東京電力・中部電力：火力発電用の燃料を共同で調達する共同出資会社を 14 年度中に設立すると正式発表	・ダドリー・ニューヨーク連銀総裁：15 年半ばの利上げは妥当と発言 ・IMF：世界経済見通しを発表し、世界成長予想を下方修正 ・ノーベル賞：青色発光ダイオード（LED）の発明で赤崎・天野・中村 3 氏がノーベル物理学賞に受賞
10 月 8 日（水）	・韓国ソウル中央地検：朴大統領の動静等を書いた記事が同氏の名誉を棄損したとして、加藤産経新聞前ソウル支局長を在宅起訴	・三鬼商事：東京都心 5 区のオフィス空室率は前月末比 0.37 ポイント低下の 5.65%と 5 年 7 ヶ月ぶりに 5%台となる。 ・財務省：15 年度から実施する法人実効税率の引き下げにあわせて、税収の減少分を穴埋めするため、外形標準課税の引き上げや株式配当への課税を強化する工程表を与党税制協議会に提示	・韓国企画財政省：円安の打撃を受けている国内輸出企業に対する支援策を発表 ・李中国首相：年内に情報通信網や水資源保存、環境保護の分野で大型投資計画を打ち出す ・米：米国内で初めてエボラ出血熱への感染が確認され、治療を受けていた男性患者が死亡
10 月 9 日（木）	・政府：来春の統一地方選の日程を 4 月 12 日と 26 日とすることを閣議決定	・国内銀行：平日午後 3 時までとしている他行に現金を振り込める時間を 15 年度中にも午後 4 時に延長する ・丸紅：タイの国営エネルギー会社と組み、ミャンマーで最先端の石炭火力発電所を建設する、事業費 3,500 億円	・フィッシャーFRB 副議長：超低金利政策の継続期間を示す表現として使う「相当な期間」について、「2 ヶ月から 1 年を示す」と述べた
10 月 10 日（金）			

8．日米経済指標の動向（グラフ）

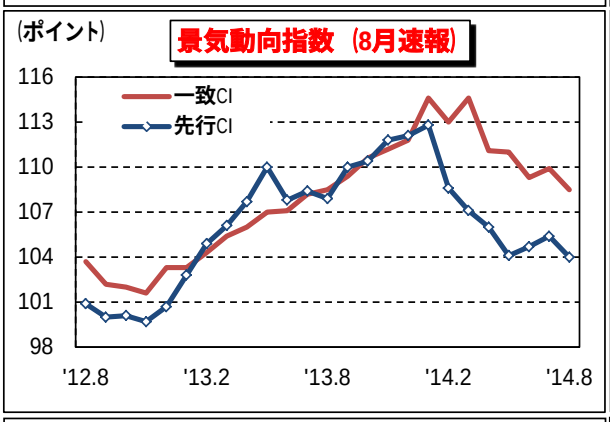
【日本】



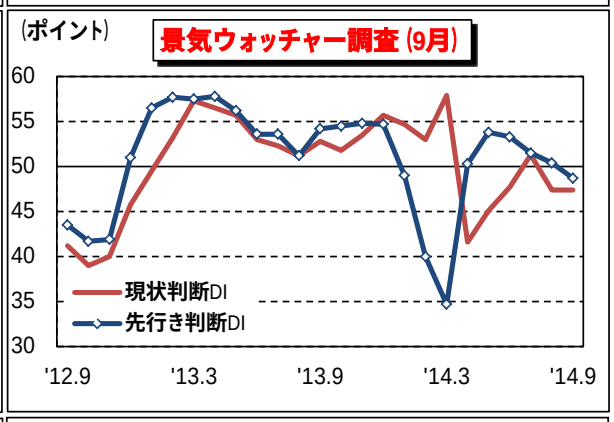
外貨準備高（原数値）は、1兆2,644億米ドルと前月から減少した。



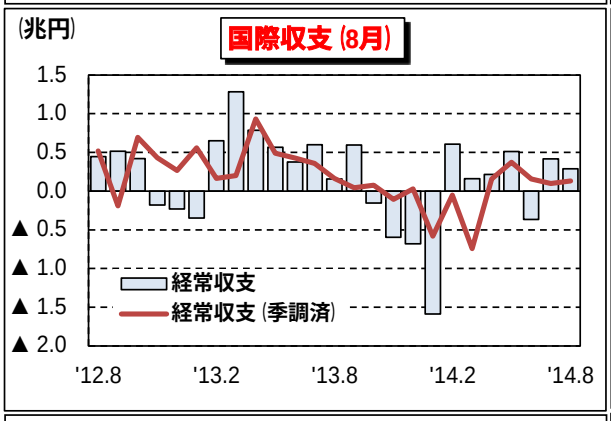
マネタリーベース月末残高は、252.6兆円と前月から増加した。なお、9月6～7日の日銀金融政策決定会合では、2014年のマネタリーベースの目標を270兆円に据え置いている。



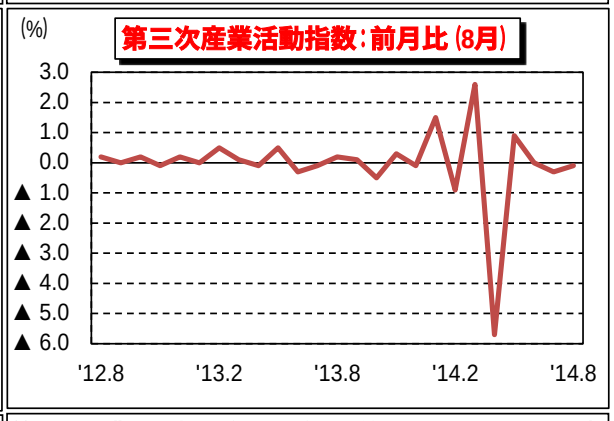
景気動向指数（速報値）の一致CIは、108.5と2ヶ月ぶりに低下した。また、先行CIは、104.0と3ヶ月ぶりに低下した。



景気ウォッチャー調査の現状判断DIは、47.4と2ヶ月連続で50を下回った。先行き判断DIは、48.7と6ヶ月ぶりに50を下回った。

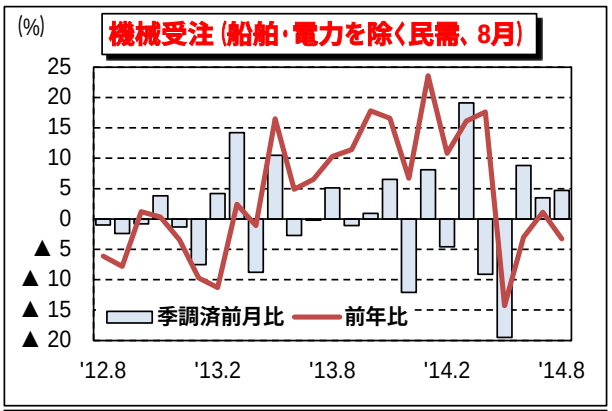


経常収支（原数値）は、2,871億円と2ヶ月連続の黒字となった。同季節調整値は、1,308億円と5ヶ月連続の黒字。



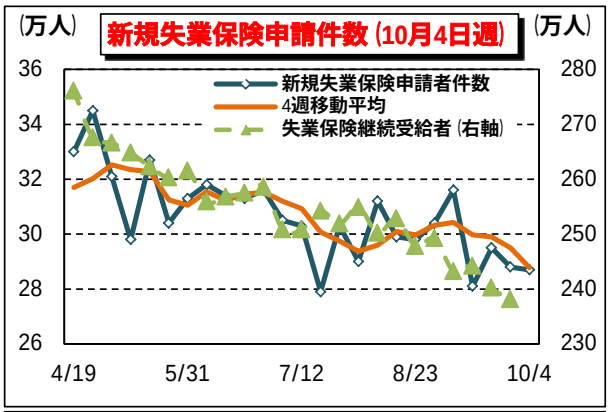
第三次産業活動指数（季調済）は、前月比▲0.1%と2ヶ月連続で低下した。

（資料）Bloomberg より農中総研作成

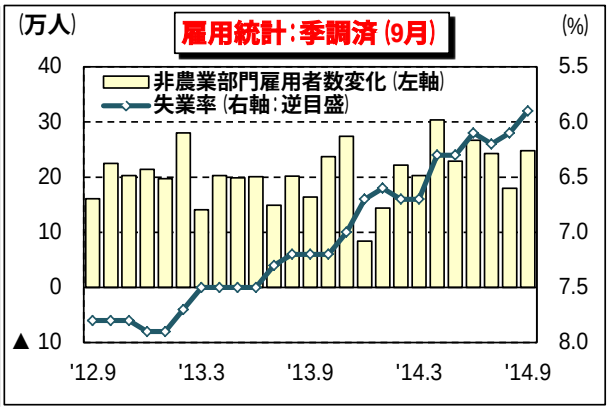


機械受注（船舶・電力を除く民需）は、前月比4.7%と3ヶ月連続で増加した。前年比では▲3.3%と2ヶ月ぶりに減少した。

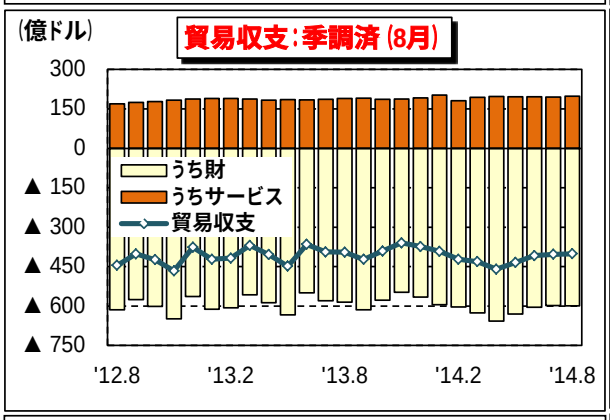
【米国】



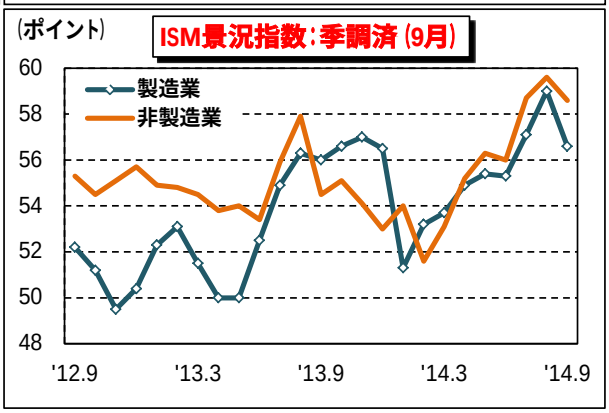
新規失業保険申請者件数は、28.7万人と事前予測（29.5万人）を下回った。一方、失業保険継続受給者数（9月27日週）は、238.1万人と事前予測（241.0万人）を下回った。



雇用統計の非農業部門雇用者数変化は、前月比24.8万人と事前予測(21.5万人)を上回った。失業率は、5.9%と事前予測（6.1%）よりも改善した。



貿易収支は、▲401億ドルと、事前予測（▲408億ドル）より赤字幅が小さかった。



米供給管理協会（ISM）発表の製造業景況指数は57.5と事前予想（57.9）を下回った。また、非製造業景況指数は、58.6と事前予測（58.5）を上回った。

（資料）Bloomberg より農中総研作成

内外金融市場データ

http://www.nochuri.co.jp

	長期金利			短期金利					外国為替			国内株価指数		海外株価指数				海外金利			その他		
	新発10年国債利回	債先10年物中心限月	金利スワップレート5年物(円-円)仲値	無担保コール翌日物	国庫短期証券3ヶ月物	TIBORユーロ円3ヶ月	TIBORユーロ円6ヶ月	金利先物(利回)中心限月	ドル円スポットレート東京17:00現在	ユーロドルスポットレート	ユーロ円スポットレート東京17:00現在	日経平均株価225	TOPIX	米国NYダウ工業株30	米国ナスダック総合	ストックス欧州600	中国上海総合	米国財務省証券3ヶ月物国債利回	米国財務省証券10年物国債利回	独国10年物国債利回	NY金先物期近	NY原油先物WTI期近	OPEC原油バスケット価格
14/08/14	0.500	146.17	0.256	0.068	0.019	0.2100	0.299	0.200	102.47	1.337	136.90	15,314.57	1,270.50	16,713.58	4,453.00	331.04	2,206.47	0.025	2.402	1.017	1,315.7	95.58	100.99
14/08/15	0.500	146.16	0.259	0.068	0.024	0.2100	0.299	0.205	102.53	1.340	137.15	15,318.34	1,270.68	16,662.91	4,464.93	329.72	2,226.73	0.025	2.340	0.953	1,306.2	97.35	99.94
14/08/18	0.495	146.22	0.255	0.066	0.024	0.2100	0.299	0.205	102.48	1.336	137.18	15,322.60	1,271.26	16,838.74	4,508.31	333.60	2,239.47	0.025	2.393	1.014	1,299.3	96.41	99.42
14/08/19	0.500	146.19	0.261	0.067	0.024	0.2100	0.299	0.205	102.60	1.332	136.49	15,449.79	1,280.29	16,919.59	4,527.51	335.49	2,245.33	0.025	2.400	1.001	1,296.7	94.48	98.93
14/08/20	0.515	146.02	0.273	0.073	0.025	0.2100	0.299	0.205	103.30	1.326	137.33	15,454.45	1,279.64	16,979.13	4,526.48	335.30	2,240.21	0.020	2.426	0.990	1,295.2	96.07	99.52
14/08/21	0.525	145.86	0.285	0.067	0.025	0.2100	0.299	0.205	103.83	1.328	137.83	15,586.20	1,291.19	17,039.49	4,532.10	337.51	2,230.46	0.010	2.407	0.993	1,275.4	93.96	99.03
14/08/22	0.505	146.07	0.271	0.068	0.030	0.2100	0.299	0.200	103.77	1.324	137.88	15,539.19	1,286.07	17,001.22	4,538.55	336.75	2,240.81	0.015	2.402	0.982	1,280.2	93.65	99.19
14/08/25	0.505	146.08	0.265	0.068	0.030	0.2100	0.299	0.205	104.13	1.319	137.34	15,613.25	1,291.31	17,076.87	4,557.35	340.46	2,229.27	0.015	2.382	0.948	1,278.9	93.35	99.09
14/08/26	0.495	146.19	0.262	0.071	0.030	0.2100	0.299	0.205	103.89	1.317	137.07	15,521.22	1,285.01	17,106.70	4,570.64	342.96	2,207.11	0.020	2.396	0.939	1,285.2	93.86	99.82
14/08/27	0.490	146.24	0.259	0.067	0.030	0.2100	0.299	0.200	103.91	1.319	137.02	15,534.82	1,285.92	17,122.01	4,569.62	343.33	2,209.47	0.025	2.357	0.910	1,283.4	93.88	100.06
14/08/28	0.485	146.29	0.255	0.074	0.031	0.2100	0.299	0.200	103.76	1.318	136.95	15,459.86	1,280.74	17,079.57	4,557.70	341.05	2,195.82	0.025	2.336	0.883	1,290.4	94.55	99.97
14/08/29	0.490	146.23	0.259	0.070	0.024	0.2100	0.299	0.200	103.83	1.313	136.74	15,424.59	1,277.97	17,098.45	4,580.27	342.00	2,217.20	0.020	2.343	0.890	1,287.4	95.96	99.99
14/09/01	0.495	146.23	0.259	0.068	0.023	0.2100	0.299	0.200	104.15	1.313	136.77	15,476.60	1,283.06	休場	休場	342.86	2,235.51	0.020	2.343	0.882	休場	休場	100.10
14/09/02	0.500	146.16	0.264	0.070	0.023	0.2100	0.299	0.200	104.84	1.313	137.62	15,668.60	1,297.00	17,067.56	4,598.19	342.75	2,266.05	0.015	2.421	0.931	1,265.0	92.88	98.95
14/09/03	0.535	146.16	0.263	0.069	0.015	0.2100	0.299	0.200	104.96	1.315	137.78	15,728.35	1,301.52	17,078.28	4,572.57	344.97	2,288.63	0.020	2.396	0.955	1,270.3	95.54	98.66
14/09/04	0.530	146.15	0.264	0.074	0.004	0.2100	0.299	0.200	104.95	1.294	137.94	15,676.18	1,296.39	17,069.58	4,562.29	348.89	2,306.86	0.020	2.450	0.970	1,266.5	94.45	99.15
14/09/05	0.535	146.05	0.269	0.070	0.000	0.2100	0.299	0.200	105.25	1.295	136.17	15,668.68	1,293.21	17,137.36	4,582.90	347.57	2,326.43	0.025	2.459	0.928	1,267.3	93.29	98.38
14/09/08	0.530	146.18	0.263	0.067	−0.004	0.2100	0.299	0.200	105.13	1.290	136.07	15,705.11	1,298.64	17,111.42	4,592.29	346.09	休場	0.020	2.471	0.953	1,254.3	92.66	97.00
14/09/09	0.530	146.21	0.265	0.067	−0.003	0.2100	0.299	0.205	106.32	1.294	136.91	15,749.15	1,299.62	17,013.87	4,552.29	344.87	2,326.53	0.010	2.504	0.996	1,248.5	92.75	96.99
14/09/10	0.545	146.10	0.270	0.071	−0.001	0.2100	0.299	0.200	106.64	1.292	137.91	15,788.78	1,306.79	17,068.71	4,586.52	344.70	2,318.31	0.015	2.541	1.047	1,245.3	91.67	95.93
14/09/11	0.560	145.42	0.284	0.067	−0.001	0.2100	0.299	0.200	106.87	1.293	138.25	15,909.20	1,311.24	17,049.00	4,591.81	344.27	2,311.68	0.010	2.550	1.041	1,239.0	92.83	95.35
14/09/12	0.570	145.40	0.288	0.070	−0.009	0.2100	0.299	0.200	107.20	1.296	138.60	15,948.29	1,313.72	16,987.51	4,567.60	344.27	2,331.95	0.010	2.611	1.082	1,231.5	92.27	95.68
14/09/15	休場	休場	休場	休場	休場	休場	休場	休場	休場	1.294	休場	休場	休場	17,031.14	4,518.90	343.91	2,339.14	0.010	2.589	1.067	1,235.1	92.92	94.68
14/09/16	0.575	145.37	0.289	0.067	−0.009	0.2100	0.299	0.200	107.11	1.296	138.63	15,911.53	1,310.86	17,131.97	4,552.76	342.84	2,296.56	0.010	2.592	1.061	1,236.7	94.88	95.30
14/09/17	0.555	145.61	0.276	0.066	−0.010	0.2100	0.299	0.200	107.27	1.287	139.02	15,888.67	1,304.96	17,156.85	4,562.19	344.39	2,307.89	0.015	2.620	1.050	1,235.9	94.42	95.84
14/09/18	0.565	145.41	0.285	0.068	−0.009	0.2100	0.299	0.200	108.55	1.292	139.90	16,067.57	1,317.91	17,265.99	4,593.43	347.78	2,315.93	0.005	2.614	1.081	1,226.9	93.07	95.19
14/09/19	0.560	145.50	0.281	0.069	0.010	0.2100	0.299	0.200	109.11	1.283	140.64	16,321.17	1,331.91	17,279.74	4,579.79	348.52	2,329.45	0.010	2.575	1.043	1,216.6	92.41	94.44
14/09/22	0.540	145.72	0.268	0.065	−0.005	0.2100	0.299	0.200	108.90	1.285	139.48	16,205.90	1,330.88	17,172.68	4,527.69	346.69	2,289.87	0.000	2.564	1.010	1,217.9	91.52	94.37
14/09/23	休場	休場	休場	休場	休場	休場	休場	休場	休場	1.285	休場	休場	休場	17,055.87	4,508.69	341.89	2,309.72	0.010	2.528	1.013	1,222.0	91.56	94.31
14/09/24	0.525	145.84	0.261	0.066	−0.006	0.2100	0.299	0.200	108.55	1.278	139.60	16,167.45	1,326.18	17,210.06	4,555.22	344.35	2,343.58	0.010	2.564	1.004	1,219.5	92.80	94.18
14/09/25	0.520	145.88	0.261	0.073	−0.004	0.2100	0.299	0.195	109.34	1.275	139.05	16,374.14	1,346.43	16,945.80	4,466.75	341.44	2,345.10	0.005	2.502	0.973	1,221.9	92.53	94.25
14/09/26	0.515	145.88	0.264	0.066	−0.002	0.2100	0.299	0.190	108.97	1.268	138.90	16,229.86	1,331.95	17,113.15	4,512.19	342.30	2,347.72	0.010	2.528	0.972	1,215.4	93.54	94.13
14/09/29	0.520	145.83	0.266	0.066	0.000	0.2100	0.299	0.190	109.61	1.269	138.96	16,310.64	1,337.30	17,071.22	4,505.85	340.99	2,357.71	0.005	2.477	0.964	1,218.8	94.57	94.54
14/09/30	0.525	145.84	0.265	0.029	0.000	0.2100	0.299	0.185	109.42	1.263	138.80	16,173.52	1,326.29	17,042.90	4,493.39	343.08	2,363.87	0.015	2.489	0.947	1,211.6	91.16	94.17
14/10/01	0.525	145.87	0.260	0.049	0.001	0.2100	0.299	0.185	109.85	1.262	138.37	16,082.25	1,318.21	16,804.71	4,422.09	340.22	休場	0.010	2.386	0.901	1,215.5	90.73	92.19
14/10/02	0.520	145.91	0.255	0.056	0.002	0.2100	0.299	0.180	108.83	1.267	137.40	15,661.99	1,280.15	16,801.05	4,430.20	332.05	休場	0.010	2.425	0.902	1,215.1	91.01	90.40
14/10/03	0.520	145.98	0.249	0.061	−0.011	0.2100	0.299	0.180	108.76	1.252	137.51	15,708.65	1,282.54	17,009.69	4,475.62	335.19	休場	0.005	2.434	0.925	1,192.9	89.74	90.33
14/10/06	0.515	145.97	0.251	0.060	−0.015	0.2100	0.299	0.185	109.43	1.266	137.20	15,890.95	1,296.40	16,991.91	4,454.80	336.00	休場	0.005	2.420	0.906	1,207.3	90.34	90.40
14/10/07	0.510	146.05	0.246	0.059	−0.018	0.2100	0.299	0.190	108.51	1.267	137.16	15,783.83	1,290.89	16,719.39	4,385.20	330.85	休場	0.005	2.339	0.906	1,212.4	88.85	89.37
14/10/08	0.500	146.14	0.243	0.059	−0.019	0.2100	0.299	0.190	108.13	1.273	136.82	15,595.98	1,274.85	16,994.22	4,468.59	328.00	2,382.79	0.000	2.321	0.907	1,206.0	87.31	88.32
14/10/09	0.485	146.26	0.239	0.059	−0.020	0.2100	0.299	0.185	107.64	1.269	137.62	15,478.93	1,260.78	16,659.25	4,378.34	326.67	2,389.37	0.005	2.313	0.906	1,225.3	85.77	
14/10/10	0.500	146.16					0.299	0.175	107.81	1.270	136.90	15,276.04	1,239.48				2,375.28	0.005	2.314		1,222.9	83.81	

（資料）Bloombergより農中総研作成。最終日は13時20分時点で入手可能な最新データを掲載。最終日のTOPIXは20分ディレイで表示。